



Press Release

2023年10月10日

報道関係者各位

会社名 第一三共株式会社
代表者 代表取締役社長 奥澤 宏幸
(コード番号 4568 東証プライム市場)
問合せ先 コーポレートコミュニケーション部長 朝倉 健太郎
TEL 03-6225-1126

Healthcare as a Service (HaaS)の実現を目指し 味の素株式会社と食・栄養関連の課題解決に向けた協業を合意

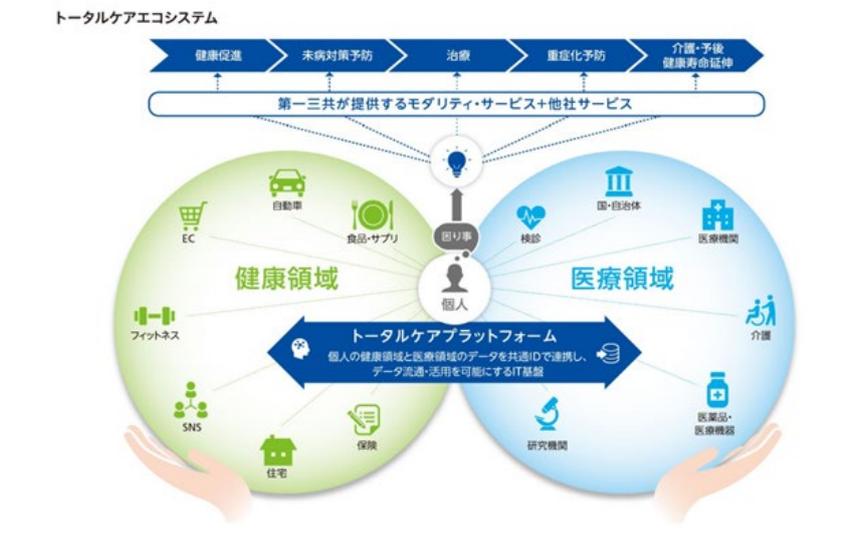
第一三共株式会社(本社:東京都中央区、以下「当社」)は、Healthcare as a Service(以下、「HaaS」*¹)の実現を目指し、味の素株式会社(本社:東京都中央区、以下「味の素社」)と2023年9月21日に基本合意しましたのでお知らせいたします。

当社と味の素社は、今回の基本合意に基づき、介助者と要介助者の日常生活における食と栄養に関する課題解決を目指してまいります。協業の第一弾として、味の素社が本日開設した、摂食に関する困りごとに対応したAI搭載献立支援サイト「ReTabell(リタベル)*²」の普及を共同で進めます。

当社は、味の素社との協業を通じて得られるデータなどを活用し、食と栄養に関する新規ソリューションの提供を目指すことにより、HaaSの実現およびトータルケアエコシステムの構築に向けたDXの取り組みを一層推進してまいります。

以上

*1 「Healthcare as a Service (HaaS)」とは、多様なデータや先進技術を活用し、一人ひとりに寄り添った最適な健康・医療サービスを提供することです。



*2 「ReTabell」は、要介助者の体調(※¹)・嗜好が変化して一旦食べられなくなっても再び(Re)食べられるようになることや、医療関係者(医師、薬剤師、看護師、管理栄養士等)や介助者の要介助者に対する利他(リタ)的行動を支援するWebサイトです。摂食に関する困りごとを抱える人への献立は、経験豊富な管理栄養士でも悩むことが多いとされています。「ReTabell」サイトは、科学的なエビデンスを実フィールド検証によって得ており(※²)、さらに栄養関連学会のガイドラインに準拠したAIレシピ検索アルゴリズムを(特許取得済)を搭載しています。これにより、医療機関や在宅における要介助者の食・栄養に関するQOL向上に貢献します。

「ReTabell」サイト: <https://retabell.ajinomoto.co.jp>

※¹「Retabell」サイト内の体調とは、病気の主な症状(主訴)ではなく、加齢や薬の副作用に伴う体調(上手に付き合いながら共存する体調)を指しています。サイトにおけるレシピや食事のヒントは、このような体調の改善や疾病の治療を目的とするものではありません。

※²遠隔在宅食事支援システムの有用性 JASPEN誌 Vol.2(2)2020

食と栄養に関する課題について

本基本合意に先立ち、両社が医療関係者と介助者、要介助者に対して行った調査結果からは、加齢や薬の副作用に伴って体調や嗜好が変化し、要介助者の摂食に関する困りごとが顕在化していることが示唆されました。これらの困りごとを放置すると栄養摂取が不十分となり、治療の継続・完遂に困難を来し、QOL(Quality Of Life)が低下するという悪循環に陥ることがあります。一方、医療関係者や介助者が要介助者と食事について対話できる機会と時間は限られていることも多く、一人ひとりの体調・嗜好の経時変化に応じた食事相談を実施することが難しいとされています。

当社は、両社による「ReTabell」サイトの普及活動が上記課題の解決に寄与し、さらには、当社が実現を目指すHaaSにおいて、医薬品による治療を受ける患者さんやそのご家族に新たな価値を提供していくことができるものと考えます。中でも、がん患者さんの健康と幸福といったWell-Beingへの貢献は、がん領域をけん引する当社の使命と考えています。

当社が目指すHaaSについて

当社は、患者さんや生活者一人ひとりの困りごとを解決しWell-Beingを実現するために、健康促進～予防～治療～予後ケアに亘りあらゆる企業・団体と協業する場であるトータルケアエコシステムと、個人に紐づくさまざまな健康・医療領域データを連携させ、データの流通・活用を可能とするトータルケアプラットフォームの構築を進めています。さらに、社会課題を解決する新しい価値(社会保障費削減、医療資源の最適化、医療アクセス改善、健康寿命延伸等)を創出、提供していきます。当社は、HaaSの実現に向けて、健康・医療領域の企業・団体やデータプロバイダー・IT企業などと積極的に連携しながら、このトータルケアエコシステムとトータルケアプラットフォーム構築をリードする役割を担い、当社の強みであるサイエンス&テクノロジーを軸として、新たな医療サービスの創出に貢献すると同時に、サステナブルな社会の実現に貢献できる会社を目指しています。

トータルケアエコシステム/トータルケアプラットフォーム構築の進捗について

当社は、トータルケアエコシステムの本格化に向けて、複数のパートナー企業とともに2022年度にプロジェクトを開始しました。また同時に、トータルケアエコシステムのフロントエンド機能を担うソリューションの開発や、乳がん関連症状SaMDの臨床研究の開始準備を進めています。今後もトータルケアエコシステム/トータルケアプラットフォームによる、ライフジャーニーに寄り添ったサービス提供の実現に取り組んでまいります。